

【グループ討議 D 記録】

参加者：12 大学 12 名

司会進行：山口純代（愛知淑徳大学）

報告：三浦慶嗣（中京女子大学）

記録：小川真智子（愛知工業大学）

グループ討議に先立ち、参加者全員の自己紹介が行われ、全体討議の報告者が選出された。本グループでは、司会の山口氏が作成した資料（ 1 ）を基に意見交換が行われ、利用者や貸出冊数について、増加の実績がある大学はその要因の分析を行った。

また、その他の大学は利用者増加に向けての取り組み・課題について報告を行った。

1. 利用者増加の要因（分析）

開館時間の延長

学部学科の再編・新学科設立による学習スタイルの変化

- ・ 教員から図書館資料を対象とした課題が出題されるようになった

資料について

- ・ シラバスに掲載されている資料はすべて購入している
- ・ 学部の内容に関係のある DVD や漫画本を受け入れている
- ・ 購入希望の制度を積極的に活用している

利用ガイダンス

- ・ 新入生対象のガイダンスでは、まず図書館に興味を持つことを念頭に行っている
- ・ 学部別に内容を検討して行っている
- ・ 購入希望の制度を積極的に活用している

企画展の開催

施設利用の見直し

- ・ 利用者により制限していた図書館内の研究用個室を開放した

新設学科のための資料を別置き、フロア構成を変えた

2. 利用者増加への取り組み（事例）

選書ツアー

- ・ 学部ごとに応募者を募り、予算を 100 万円とした選書ツアーを行っており、専門書以外の資料も対象としている。

利用ガイダンス

- ・ 「基礎演習」では 1 年生全員に図書館員が図書館利用ガイダンスを実施、総合基礎科目では、図書館員が授業の 1 コマを受け持っている。
- ・ ゼミ単位や文献検索講習会など、利用者の情報ニーズに即したガイダンスを

行っている

- ・「図書館スキルアップ講座」など、利用者のレベル別かつ少人数制の新しいタイプのガイダンスを検討中である

図書館報の発行

パスファインダー

- ・教員からトピックや基本的資料の推薦を受け、作成している。

利用者ニーズの把握

- ・アンケート、シラバスやカリキュラム、文献依頼のデータの分析
- ・閲覧利用された資料の統計

3. 利用者増加に向けて（課題）

教員をはじめとする学内の連携、コミュニケーションの重要性を再認識するなか、非来館型の利用者にもどのような広報を行っていくか、という課題もでた。

利用者ニーズの把握は難しいが、さまざまな統計から分析を行い、必要な情報を必要な時期に利用者に提供すること、資料・サービス・施設など多方面から図書館の存在感を高める取り組みを行うことが今後ますます求められる。

1. 配布資料の出典：

「日本の図書館：統計と名簿 2008」(ISBN：9784820408192)

「日本の図書館：統計と名簿 2007」(ISBN：9784820407249)

以上